

2022年 冬山訓練

2022年1月16日（日）

A班 CL：澤田、SL：長沼、SL：渡辺、指導：宇田、後藤、笹山、水江、竹内、武川、太田、佐藤 11人

8：00サンライバスキー場集合。

第3リフト乗り場付近でビーコンチェック、使用法について確認。



スキー場を移動して、林道入り口で現在地確認、地図とコンパスでルート確認。

林道途中で雪崩危険地帯の通過方法の確認。ザックのベルト、スキーの流れ止めを外して、一人ずつ間隔をあけて進む。



林道から尾根にとりついた斜面で抜き上げキックターンの練習を行うが、初めての人にとってはもう少し斜度のある所でやらなければ実感がわかない。今後の山行で慣れていくしかないところである。

10本松過ぎを超えた700mのいつもの斜面に到着。

(スノーシュー班を含めたB班はその手前での訓練を行ったようだ)。

ハンドテスト、コンプレッションテストを行う。ハンドテストでは70センチのところ



に弱層を確認したが、コンプレッションテストではさらに表層より20センチのところに弱層があった。いきなり深いところではなく浅い部分から徐々に確認する必要があると感じた。また、ショベルよりスノーソーを使った方が時間短縮に有効なことが分かった。

続いて、ビーコンを使つての搜索訓練。事前に2か所に埋めたザック（ビーコン入り）の搜索。全員スキーを履いていなかったため、目標物に到達するまでに手間取った。掘り出しの際、V字コンベアベルト法（コンパニオンレスキュー）の連携訓練までは十分に

できなかった。また、ゾンデ棒はすぐに取り出せるようにしておくことやロックに手間取る人が多く、普段からの練習が必要なことが確認できた。



弱層テストで掘ったところにそれぞれツェルト（所有者のみ）を張って昼食休憩。ピバークを想定して一晩過ごせる仕様にと、それぞれ工夫を凝らした。

昼食休憩後、埋没体験、搬送訓練を行う。

埋没体験ではいろいろな体制で埋没した場合を想定した。



搬送訓練では今回はヘリでの搬送が可能な地点までの短距離の移動を想定したため、搬送をされる人の体にツェルトを巻き付けたのみの方法をとったが、救護者の体をロープやスリングで固定する方法やツボ足の搬送では手間取るなどの課題が判明した。



冬山訓練はスケジュールの都合上シーズン中に何度も開催するわけにはいかないの、山行中に都度、現場で繰り返し確認・実践する必要がある。また、抜き上げキックターンなど個人でできることは山行の際に積極的に実践して身に着けなければならないと感じた。

文責：水江 写真後藤、澤田